# 保育士養成課程における施設実習の課題に関する一考察
## ―　学生のアンケート調査を通じて　―

A study for Nursery Teacher's Training Course Problems In Facility Training:
Through a Student Questionnaire survey

藤　田　　了
Ryo FUJITA

**【要旨】**

本研究は、本学で実施される保育実習のうち、保育所以外の施設実習の一つである児童養護施設実習に関する実習指導の質の向上を目的とし、児童養護施設実習を終えた学生からアンケート調査を行った。

調査結果から、学生が実習の事前指導で知りたい内容は、実際の現場の環境、現場の職員の児童との関わり方、実習の体験談、また何かあった時の対処方法を知りたいと思う学生が多くいたことが分かった。また、児童養護施設がどのようなところなのか、なかなかイメージが持てないという学生も多くいており、社会福祉施設への見学や、地域活動のボランティア等への参加など、社会福祉施設を知ることへの取り組みの必要性が示唆された。

キーワード：保育士　児童養護施設　保育士養成課程　施設実習　実習指導

### Ⅰ．問題と目的

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長雇児発0808第２号平成25年８月８日一部改正）のなかで、保育実習の目的は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることとしている。（表１、表２）

保育士養成校で実施される保育実習のうち、保育所以外の施設実習について考察した先行研究は多数存在する。実習を経験した学生についてさまざまな角度から分析し、そこから実習の質を向上させるために、事前事後指導にどのように活かしていくかについて考察しているものなど、より良い保育者を養成し、現場に輩出する事については、どの研究も目的は合致していると考えられる。加藤（2014）は、実習の事後指導において実習で何を経験し、何に対応できなかったのか、感情面での衝撃や戸惑いについても指導者側（大学）が十分に受けとめる必要があると指摘している。また、清水ら（2012）は、学生の施設実習に対する不安要因は大きく２つあるとし、１つは、宿泊に伴う不安であり、もう１つは、否定的な関わりに対する不安であると指摘している。

本稿の目的は、筆者が、平成27年度に実施された本学院の児童養護施設実習の事後指導において、

表１　「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」教科目の教授内容　保育実習Ⅰ

【保育実習】

＜科目名＞
保育実習Ⅰ（実習・4単位：保育所実習2単位・施設実習2単位）

＜目標＞
1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

＜保育所実習の内容＞
1. 保育所の役割と機能
　（1）保育所の生活と一日の流れ
　（2）保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
　（1）子どもの観察とその記録による理解
　（2）子どもの発達過程の理解
　（3）子どもへの援助やかかわり
3. 保育内容・保育環境
　（1）保育の計画に基づく保育内容
　（2）子どもの発達過程に応じた保育内容
　（3）子どもの生活や遊びと保育環境
　（4）子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
　（1）保育課程と指導計画の理解と活用
　（2）記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
　（1）保育士の業務内容
　（2）職員間の役割分担や連携
　（3）保育士の役割と職業倫理

＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞
1. 施設の役割と機能
　（1）施設の生活と一日の流れ
　（2）施設の役割と機能
2. 子ども理解
　（1）子どもの観察とその記録
　（2）個々の状態に応じた援助やかかわり
3. 養護内容・生活環境
　（1）計画に基づく活動や援助
　（2）子どもの心身の状態に応じた対応
　（3）子どもの活動と生活の環境
　（4）健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
　（1）支援計画の理解と活用
　（2）記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
　（1）保育士の業務内容
　（2）職員間の役割分担や連携
　（3）保育士の役割と職業倫理

※「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」
（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長雇児発0808第２号平成25年８月８日一部改正）を元に筆者が作成

表２　「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」教科目の教授内容　保育実習指導Ⅰ

【保育実習】

| |
|---|
| ＜科目名＞<br>保育実習指導Ⅰ（演習・2単位） |
| ＜目標＞<br>1. 保育実習の意義・目的を理解する。<br>2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。<br>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。<br>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。<br>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 |
| ＜内容＞<br>1. 保育実習の意義<br>（1）実習の目的<br>（2）実習の概要<br>2. 実習の内容と課題の明確化<br>（1）実習の内容<br>（2）実習の課題<br>3. 実習に際しての留意事項<br>（1）子どもの人権と最善の利益の考慮<br>（2）プライバシーの保護と守秘義務<br>（3）実習生としての心構え<br>4. 実習の計画と記録<br>（1）実習における計画と実践<br>（2）実習における観察、記録及び評価<br>5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化<br>（1）実習の総括と自己評価<br>（2）課題の明確化 |

※「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」
（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長雇児発0808第２号平成25年８月８日一部改正）を元に筆者が作成

学生から「年齢が近い高校生との関わりが難しかった」、「喧嘩の仲裁に困った」、「試し行動がひどくつらかった」など、実習中に児童との関わりの中で苦慮したという意見を数多く聞く中で、今後の児童養護施設実習において児童との関わりをより良いものにし、学びの多い実習にすることなど、実習指導の資質を向上させることを目的とした。

## Ⅱ．方法

### 調査対象

本学院の平成27年度１回生51名

### 調査内容

①児童養護施設実習で何を学んだか。

②実習前指導の授業である、保育実習指導Ⅰ［b］の授業で、実習を実施して役にたったことや改善してほしいことなどは何か。

③児童養護施設実習で困ったことは何か。

以上の項目について回答を求めた。なお、質問の内容は学生自身の本音を導き出しやすいようになるべく制限をかけない項目とした。

### 調査手続き

事前にアンケート用紙を配布し、回答をもとに半構造化インタビューを個別に実施した。

**調査期間**

平成28年４月９日から５月17日の間で実施

## Ⅲ．結果と考察

**回答者の属性**

回答者は、男性３名、女性48名である。実習先は児童養護施設であるが、一部実習期間中に児童養護施設に併設している乳児院にて短時間ではあるが実習した学生がいた。宿泊での実習が49名、通いでの実習が２名。また、面接形式の調査であるため、調査対象者51名全員の回答が得られた。

**児童養護施設実習で何を学んだか**

| 抽出されたカテゴリー | 内　　容 |
|---|---|
| 関　わ　り | 子ども達一人ひとりの対応の仕方 |
| | 児童とのかかわり方 |
| | してはいけないことをきちんと教えてあげること |
| | 年齢に応じた接し方 |
| | 発達障害・知的障害児との関わり方 |
| | 子どもを理解してあげる難しさ |
| | 保育所とは違う子ども達との関わり方 |
| | 一緒に過ごしたり同じ時期を共有することが大切 |
| | 保育士と子どもたちの信頼関係 |
| | 暴言、暴力等問題行動の際の対応 |
| | 試し行動にもさまざまな種類がある |
| | 挨拶の大切さ |
| | タイムアウトの必要性 |
| | 施設内で起こる問題やその対処 |
| | コモンセンス・ペアレンティングを取り入れた子どもとの接し方 |
| | 一時保護の児童との関わり |
| 施設について | 児童養護施設の現状 |
| | 小舎制の施設について |
| | 児童養護施設の運営のしくみ |
| | 児童養護施設での一日の流れ |
| | 施設での生活・施設の仕事内容 |
| | 児童養護施設は明るい所だとわかった |
| | 虐待や一時保護について |
| | 自分とは全く違う環境で育ってきた子どもたちが大勢いること |
| | 子どもが安心して暮らせる環境作り |
| | 児童養護施設の役割がどういうものかについて |
| | 子ども達はやはり親のことが大好き |
| | 入所理由と子どもの行動の意味 |

| | |
|---|---|
| 児童について | 信頼関係の大切さ |
| | 現代の家庭状況や、生活について |
| | 子ども達も大人（実習生も含む）のことを見ている |
| | 子どもが抱っこをねだったり、愛着行動をすること |
| | 子どもに声を掛けるタイミング |
| 職員について | 職員の声の掛け方や返答の仕方 |
| | 職員の子どもに対しての細かい配慮 |
| | 職員の役割 |
| | 職員の仕事内容、動き |
| | 職員による挨拶や毎日話したりすることの大切さ |
| | 先生方の思い |
| | 里親について |
| そ　の　他 | 子ども達がどのような虐待を受けていたのか、自分の想像を絶するものがあった |
| | 改めて自分に足りないものを学べた |
| | 虐待やネグレクトがどんなものなのかを学んだ |
| | セカンドステップ |

児童養護施設実習で何を学んだかについて５カテゴリーに分類した。

「関わり」について回答した学生が46名であった。

児童に対して問題行動、暴言などしてはいけないことをきちんと教える親代わりの一面がある。児童との信頼をどのようにして築いていくかということを学んだ。児童養護施設は、子ども達が住んでいる家なので保育所とは違う子ども達との関わり方を学んだ。

「施設について」は、回答した学生は26名であった。

児童養護施設実習に行くまでは、施設の明るいイメージが持てなかったが、実習を通じて児童養護施設が明るい所だとわかった。児童養護施設は子ども達の生活の場であることを改めて感じた。大舎制が悪いわけではないが、ケア単位の小規模化が大切であることを学ぶことができた。

「児童について」に回答した学生は15名であった。

施設での生活は、ご飯等は家庭よりもきちんとしている面もあるので、カップラーメンの食べ方を知らなかったり、めんつゆを割ることを知らない児童もいた。施設で生活している子どもが、自分と変わらないふつうの子どもとわかった。家庭事情で親と暮らすことができない複雑な事情を持つ子どもでも多少の愛着障害等はあるものの、一般の子どもたちと変わりなく元気に明るく過ごしていることが知れた。

「職員について」に回答した学生は10名であった。

子どもに声を掛けるタイミング（子どもがすねていたり、悪いことをしたとき）を学んだ。保育所実習とは違い、家事や卒業式の参加など親代わりとなって一緒に生活するといった仕事を越えた職業であると感じた。ケースバイケースであるが子ども同士の喧嘩の仲裁を学んだ。小舎制の施設では、子ども達の自立、親元へ帰るまでの援助が実に細かく、時に大らかで子どもの幸せの為に取り組んでいる職員の方の愛を感じました。

「その他」は９名の回答があった。

里親やコモンセンスペアレンティングなど、制度政策や技術について、実習中に反省会や質問の時間を設けてもらった時に教えてもらった学生もいた。

**実習前指導の授業である、保育実習指導Ⅰ［b］の授業で、実習を実施して役にたったことや改善してほしいことなどは何か**

| 抽出されたカテゴリー | 内　　容 |
|---|---|
| 関　わ　り | 実習生と年齢の変わらない高校生との関わり方 |
| | 試し行動があること |
| | 子どもに対しての対応 |
| | 児童養護施設の一日の流れを学んだこと |
| | 虐待を受けた子どもの割合や障害を持つ子どもの割合 |
| | こまかい対応の方法 |
| | 障害の種類や対応 |
| 心　　得 | 敬語などの言葉づかい |
| | マナー（実習生としての振る舞い） |
| | 実習生としての心得 |
| | 実習中の心の持ち方 |
| | 実習に向けての準備や心がまえ |
| | 身だしなみ |
| | 実習で注意しないといけないこと |
| 記　　録 | 実習日誌の書き方 |
| | 記録でよく使う言葉 |
| | 個人票の作成 |
| | 記録で使ってはいけない言葉 |
| そ　の　他 | 児童養護施設とは何か |
| | 虐待を受けた子どもについて |
| | 施設職員とは何か |

保育実習指導Ⅰ［b］の授業で、実習を実施して役にたったことや改善してほしいことなどは何かについて５カテゴリーに分類した。

「心得」について回答した学生は17名であった。

実習に行く上で大切なことや、心構えについては、経験談も聞けて良かったという意見があった。実習をするにあたっての身だしなみや挨拶については、当たり前の事ではあるが、実習を終えて、挨拶をしっかりすることが、本当に大切なことだと感じた学生も多くいた。学びにいくという姿勢を持つことが大切と教えられたことが良かった。

「関わり」について回答した学生は14名であった。

施設実習が始まる前に、虐待を受けた子どものこと、入所の理由など、いろんなことを想定して

勉強することができた。ビデオ教材を見て、施設に入所している子の様子を見ることができたので、実習に行った際、児童からの無視やいろいろな試し行動をされても心が折れずにすんだ。実習前に支援の技術、子ども達と平等に関わることを勉強したことはためになった。一人ひとりと１日１回でも会話をすることで、コミュニケーションがとれ信頼関係を築くことにつながるということを学んだ。児童養護施設の一日の流れを学んでいたので、ある程度の児童養護施設の流れについてイメージすることができた。実際に実習に行き、イメージとの違いや現実を見ることで、学びを深めることができた。

「記録」について回答した学生は20名であった。

実習日誌の書き方を練習していたので何となくはどんなことをするか把握できた。事前に日誌の書く練習をしたのが役に立った。実習日誌についてどれだけの量を書いたらいいかイメージできた。使ってはいけない言葉等、実習中思い出しながら記入できた。

**児童養護施設実習で困ったことは何か**

| |
|---|
| 遊びが激しく体力がいる |
| 試し行動 |
| 声かけの難しさ（質問に対する返答やタイミング） |
| 同年代の児童との関わり方 |
| 良くない行動に対する対応 |
| 喧嘩の仲裁 |
| 泣いている時の対応 |
| 性教育 |
| 何らかの障害（発達障害）がある児童との関わり |
| 職員さんが忙しくしており質問ができない |

児童養護施設実習で困ったことについては、幼児のクラスに配属になったが、外遊びの時、動きが激しく体力的にしんどかった。小学生女子・中学生女子・高校生女子のクラスで実習を行ったが、暴言の試し行動がひどく、実習の最初は重く受け止めてしまいつらい思いをした。児童同士の喧嘩の仲裁について、どのように注意をしたらよいか迷うことがあり困った。高校生のクラスでの実習であったが、同年代とのコミュニケーションについて、実習の最初は戸惑ったこともあったが、趣味の話など比較的コミュニケーションが図れた。良くない行動をした子どもに対しての指導が、どのようにしたらよいか困ることがあった。

## Ⅳ．記述の分析と考察

児童養護施設実習を経験した多くの学生は、施設の設備、雰囲気が想像していたよりも明るく、子ども達の生活の場であることを改めて感じたと回答している。児童養護施設で暮らしている児童が、自分と何ら変わらないという意識を持ち、普通に関わることの大切さが実感できたと思われる。

児童養護施設実習で、何を学んだかについて聞き取った内容を見ても、「関わり」の項目について多くの学生から意見があったが、「施設」の機能や役割りについての項目も多くの学生から意見

があった。学生自身が持つ、「施設で暮らす子ども」や「虐待」に関して、実際の現場のイメージを持つことが出来ないまま実習に臨んでいるともいえ、児童養護施設がどういうところかわからないまま実習することで、分からないことに対しての不安や、恐怖を抱えたまま実習していると考えられる。

実習中に施設から、「いけないことはいけないと伝えていくことが大切であり、子どもの心と正面から向き合うことが必要である」との指導を受けた学生もいたが、「２週間の短期間の実習で、子どもに厳しく接する事は難しい」と感じる学生もいた。

実習の最初は、「心を開いてくれなかった児童も、実習の終わりにさしかかるにつれて、素直に話し掛けてきてくれてとても嬉しかった」という学生も多くいており、実習の日数を重ねていく大切さも窺えた。心を開いてくれないなど、関わりが難しい児童に対しては、普通の関わりの姿勢を持ちつつ、虐待や発達障害などの専門的知識は備えておかなければならないと言える。

児童養護施設の対象者が、学生自身の年齢と近い児童も、もちろんいることから、何を話題に話したらいいかわからないという学生も多くいた。しかし、実習後半では、「趣味の話などコミュニケーションを図ることができた」という学生もいた。

調査結果から、実際の現場の環境、現場の職員の関わりや体験談、また何かあった時の対処方法を知りたいと思う学生が多くいたことが示唆された。

また、各保育士養成校において、施設の見学や地域活動のボランティアへの参加等々の取り組みをしているところも数多くある。本学院においても、今後社会福祉施設を知ることへの取り組みが必要であると思われる。

## Ⅴ．おわりに

本学院で実施される保育実習の保育所以外の実習に関して、児童養護施設へは、１回生の２月中ごろから３月末までの間で80時間実施される。また障害児入所施設・障害者支援施設・児童発達支援センターへは、２回生の７月後半から９月前半の間で80時間の実習を行う。

今回は、本学院の１回生で実施される児童養護施設実習に焦点を当て研究を行った。施設で行われる実習が学生にとってより不安なく、学びの多いものにするためには、本学院２回生で実施される保育所以外の実習である障害児入所施設、障害者支援施設、児童発達支援センター実習についても研究が必要であると感じた。

## 引用・参考文献

堤荘祐（2009）『子どもと家庭の福祉―実践から学ぶ―』保育出版社

守巧，小櫃智子，二宮祐子，佐藤恵（2014）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

小櫃智子編者，田中君枝，小山朝子，遠藤純子（2015）『実習日誌･実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

加藤洋子（2014）『保育士の役割と保育士養成課程における福祉施設実習の指導に関する一考察』流通経済大学社会学部論叢　第24巻第２号171-196

清水里美，吉島紀江，志澤康弘，藤本史（2012）『保育士養成課程における実習指導上の留意点』
平安女学院大学研究年報　第13号19-28
「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長雇児発
0808第２号平成25年８月８日一部改正）